

カトリック二俣川教会  
教会だより



# 二十六聖人

2022年 11月号

No. 352 (2022年10月30日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

## 巻頭言：天上の教会に導かれているわたしたち

韓国では普通、葬儀のミサ、或いは、告別式を行う際には、ご遺体を棺の中に納め、その棺を祭壇の前に安置します。その時、例えば、亡くなった方が司祭だったら、頭を祭壇の方に、足を会衆席の方に向けます。でも、信者の場合は反対で、頭を会衆席の方に、足を祭壇の方に向けます。それは、司祭の場合、自分が神様の民のためにミサを捧げる人であったことを現し、信者の場合はそのミサに、自分が忠実に与ってきたのを示すことでしょう。そして、出棺する際には十字架、或いは、復活のろうそくを先頭にして、司祭であれ、信者であれ、足の方を先にして出棺します。それは、死者だとしても、キリスト・イエス様に導かれて行くのを表すのです。それを考えたら、教会の葬儀のミサや告別式は、イエス様の復活の信仰に基づいて行われる、亡くなった人の最後の儀式であるのが分かります。

もう十一月となって、全世界の教会は「死者の月」を過ごすこととなりました。わたしたちの信仰とは、イエス様がご自分の復活によって死に打ち勝ち、罪とその実である死を滅ぼされたことについての信仰です。そして、神様の慈しみと憐れみをいただいて、そのイエス様の復活と新しい命に与ることができるといことについての信仰なのです。言い換えれば、わたしたちはイエス様のその復活と永遠の命に与るために、信仰の道を歩んでいるわけです。イエス様はわたしたちがその道で疲れ果てることのないように、み言葉でわたしたちを導き、また、ご自分の御体で力づけてくださいます。つまり、ミサを通して、わたしたちは信仰の道を力強く歩めるわけです。そして、神様のお召しに答えることになる、すなわち、この世を去ることになると、自分の最後のミサに与って、最後までキリスト・イエス様の死と復活を記念し、そ

のイエス様に導かれて神様のもとに行くのです。この信仰の生活によって、わたしたちは少しずつイエス様と似る人となっていきましょう。そう考えたら、信仰のあるわたしたちにとってミサは、この世の中のすべての生活において、アルファでありオメガであるに違いありません。

**さて、十一月二日は「死者の日」と呼ばれ、**伝統的にお墓に行って祈ることが勧められています。そのお墓参りを通して、わたしたちは亡くなった人たちのために祈りながら、神様の慈しみと憐れみを願い求めますが、その祈りは、「聖徒の交わり」を表すものです。この「聖徒の交わり」という言葉は、韓国語では「すべての聖人の通功」と言いますが、生きている人たちと亡くなった人たちの「功德」が、互いのための「功德」となるのを意味します。つまり、生きている人たちの信仰生活と祈りと善い業などが、亡くなった人たちの救いに役立つものとなり、逆に、亡くなった人たち、特に、神様の御国にいる人たちの祈りが生きている人たちの救いに役立つものとなるということです。この神秘的な交わりによって、わたしたちの信仰生活の恵みが亡くなった人たちに譲られ、亡くなった人たち、特に聖人たちの祈りによる神様の憐れみと慈しみが、生きている私たちにも譲られるのです。そう考えると、今、生きている私たちの信仰の生活がどれほど大事な事なのかは言うまでもないと思います。

**葬儀のミサの最後には告別式が行われ、**それから献花とお別れの儀式が行われます。それぞれ、故人との思い出を思い起こしながら、故人と最後のあいさつをし、最後に、この世の中の教会とも別れをします。その出棺の際に、司祭はまだ棺の蓋が開いている間、次のような言葉で人々を励まし、また、故人との別れを告げます。

**「世を照らすキリストによって教会に招かれた故人は、同じように今、キリストによって栄光に輝く教会へと導かれています。「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と主は言われました。この言葉を信じ、新たな出会いへの希望のうちにお送りいたしましょう。」**

**この言葉には「教会」という単語が二回使われます。**一回目の「教会」は地上の教会で、二回目の「教会」は天上の教会、すなわち、神様の国なのです。わたしたちが生きている、死んだ後でも、キリスト・イエス様はわたしたちを教会に招いて、また、導いてくださいます。そのイエス様の愛に応えて、これからもイエス様のみ言葉に励まされ、また、ご聖体に力付けられて、この信仰の道を、心を込めて歩みたいと思います。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

## 10月教会委員会報告

### 【神父様のお話】

今日の福音（ルカ 17 章 5～10）は、弟子ではなく使徒たちに言われています。弟子たちが使徒となったのは聖霊をいただいてからです。つまりイエス様は昇天されて弟子たちが使徒となってから教会が建てられました。自分たちの教会のグループとなっている使徒たちが、私たちの信仰を増して下さいと願っています。それは私たちと同じ状況です。私たちは洗礼を受けて聖霊をいただき、教会の一員となったわけです。この使徒たちという教会共同体と一緒にあって協力しながら、神様の意向に素直に従わなければ信仰は成長出来ない事を現わす福音です。ですから、私たちの協力・謙遜さが重要であることが分かります。それを考えながら教会の様々な事に対して活動していただければありがたいと思います。

### 【今月の検討項目】

#### 1. ステンドグラス設置検討

協力いただける 5 名の方と O 氏で中心になる方を決め情報共有と今後の進め方を考えます。

#### 2. 日本二十六聖人を知る企画

『二十六聖人プロジェクト準備会』のようなプロジェクトイメージで進め、来春からはこの取り組みを継続して多くの方が順繰りに関わって学び合える会にします。

#### 3. 敬老の日のお祝い

本年度の不備な点は改善し来年度に生かす様に致します。

#### 4. 年間行事予定作成

各会は次年度計画を立案し事務所へ 10 月中に提出の事。事務所にて取り纏めます。

#### 5. 待降節（11/27）からのミサスケジュール

11 月初旬に郵送にて皆様に周知致します。

#### 6. 新しいミサ式次第

ミサ式次第が信徒に配布された時点で、11 時ミサ後に模擬ミサの映像による勉強会を 3 回実施致します。10/16、10/23、10/30 の各日曜日を予定します。

#### 7. 視覚障がい者の為の教会内施設について

視覚障がい者本人の意見を良く聞いて、専門家へのアドバイスを求めながら、慎重に対応致します。

#### 8. 事務所報告

2 階のコピー機を入れ替えました。使用時は事務所に IC カードを借りて下さい。

#### 9. 各会報告

##### 1) 典礼： 11 月 2 日（水）死者の日のミサ。

昨年と同じくノートは用紙を使用し、記載は 10 月 30 日まで受け付けます。

##### 2) 教会学校： 11 月 20 日（日）11 時ミサにて七五三のお祝いを行います。

申込期間：10 月 8 日～11 月 6 日。

**3) キリスト教講座**：12月10日（土）に牧山師指導による黙想会（黙想会—ゆるしの秘跡—ミサ）を行います。

**4) 財務**：2023年予算作成は、各会からの詳細計画は求めずに、コロナ禍での推移を鑑みて財務主幹で作成致します。

**5) 広報**：教会誌「二十六聖人」の巻頭言部分の段組みを2段に変更しています。読み易さなどの意見をお願いします。

**6) 福祉**：横浜療育医療センターの子供たちへのクリスマスプレゼントに関して、現在関係している皆様と会でプレゼント作成日程を調整中です。

**7) 建物**：聖堂雨漏り補修は完了しました（コーティング劣化部の補修）。  
・教会周辺部の雑草が生える箇所に除草シートを張りましたので草取り作業が軽減します。

**8) 共同墓地**：9月18日（日）4教会共同委員会開催。

◇死者の月の追悼ミサ（上大岡共同墓地）11月3日（木）司式：水上師・谷脇師・姜師  
参列者：共同墓地委員。

追悼ミサは11月7日から2週間、青年会のyoutubeチャンネルで録画配信致します。

**9) ヨセフ会**：9月25日（日）ヨセフ会定例会を実施。2022年スリランカの子供支援の送金についてメールで確認中です。コーヒー光の再開を予定しています（日程調整中）。

## **10) マリア会**

- ・ステラマリス帽子を編む会：9月16日（金）、9月22日（木）に活動。現在155枚の毛糸の帽子が編まれています。11月に末吉町教会にプレゼントの形にしてお届けします。10月の活動予定日は21日（金）、27日（木）です。
- ・ポリビア支援グループ：ジャムの予約販売を実施中です。（マーマレード・いちじく・ルバーブなど）ルバーブの完売が近いので、ミスクベリー販売を予定しています。
- ・アンナ会：9月12日（月）、26日（月）に活動。福祉委員会から依頼された横浜療育センターへのクリスマスプレゼントを製作しました。10月の活動予定日は17日（月）、24日（月）です。

**11) 青年会**：9月18日（日）青年会定例ミーティングを実施しました。

- ・クリスマスに向けキャンドル作りを検討中。
- ・新成人のお祝い：2023年1月15日（日）を予定します。
- ・今後のミーティング日程：10月8日（土）13:00～、10月16日（日）ミサ後、11月5日（土）13:00～、11月20日（日）ミサ後。

**12) インターファミリー**：9月25日（日）ミーティング実施。（世界難民移住移動者の日 アルペなんみんセンターの紹介、日本二十六聖人のロザリオの祈りについて）

- ・次回予定：10月23日（日）12:00～

## **【神父様より】**

高校を卒業してから成人式までの2年間は、青年会に所属してはいるものの立場が曖昧になり、ミサに来なくなる傾向がありますので、コロナ収束前でも教会全体で改善方法を考える必要があります。

以上

## ～シノドスへの準備のための 10 の質問より～ 第 7 回

### ⑨「識別することと決断すること」

教会での決定の中で、どのような手順と方法で、わたしたちは共同で識別し、決定を下すでしょうか。どうすれば、それらは改善できるでしょうか。透明性と説明責任を、どのように促進できるでしょうか。

#### (姜神父様のコメント)

以下、質問の原文です。「シノドス的な生活様式では、共同体全体を通して聖霊が何を語っているかを識別することによって決断がなされます。意思決定において、どういった方法やプロセスを用いていますか。それらはどう改善できるでしょうか。位階制の組織において、意思決定への参加をどのように促進していますか。わたしたちの意思決定の方法は、神の民全体の声に耳を傾けるのに役立っていますか。意見聴取と意思決定の関係はどうなっているでしょうか、また、これらをどのように実践に移していますか。透明性と説明責任を促進するため、どのようなツールと手順を用いていますか。どのようにして霊的共同識別を成長させることができるでしょうか。」

この質問に関して、私たちは考え方を変えなければならないと思います。特にこの“位階制”という言葉がありますが、位階制の組織とは…教会は第 2 バチカン公会議の前の教会共同体とは、聖職者と一般信者と 2 分化されていました。第 2 バチカン公会議が終わってからは、聖職者も神の民ということで 2 つの身分がある訳ではなく、ただ 2 つの役割があるという風に理解するようになりました。しかし、組織の大小に関わらず教会の中には位階制的なものの痕跡があります。2000 年間そのように生活してきたので急に変わることをできない、文化的なものや習慣的なものとなっています。変わることが出来ないからと変えようとしめない、変えようとしているのに変えようとしめないことが、実は私たちの問題だと思います。この“意思決定”という言葉と“意見聴取”という言葉がありますが、意見はちゃんと聞きながらも意思決定に関してはとりあえず伝統的な組織、あるいは伝統的な方法で行うことがたくさんあります。プロセスが遅くなったとしても、それでも皆さんが意見交換や分かち合いをしながらもっと良い方法やもっと良い目的を目指していかなければならないと思います。

ここには“霊的共同識別”という言葉があります。これは難しいことです。共同体が一緒になってある行事や問題に対してこれを担当している人たちが“識別”することではなく、みんながそれを共同で“識別”することです。“識別”とは、何が正しいか正しくないかという意味のものではなく、何を神様が望んでおられるのかに対する“識別”なので、そういうことを上手く行うためには私たちひとりひとりの心や個人的な経験や知識は一旦横に置いて、みんなが神様の意向に耳を傾けることが必要です。

それは私たちにとっては難しいことかもしれませんが、私たちは“信仰”という言葉で神様の民(信仰のある人)という身分意識を持っています。“信仰のある人”という身分は認識していま

すが、実際に活動するときや仕事や奉仕に関しては昔からの形でやっているのではないかという気がします。それぞれの委員会や団体でも、ひとりが全てを決めるのではなく皆さんが意見交換した上で、どういう風にしたら良いでしょうかという姿勢で最後まで意見交換の形でやるのがシノドス的な方法だということです。どんな組織でも決定権者がいますが、その人自身がその権利を横に置いて、みんなと平等な立場で話し合ったり分かち合ったりすることが大事なことです。これからも私たちの共同体も、そしてこの教会委員会でも、特定の委員会や団体を批判することではなく、方向性やより良い方法を教え合うことが出来たら良いと思います。

\*\*\*\*\*

## 10月・11月の二俣川教会

- ザビエル祭が、11月23日（水・祝）に東京都練馬区にある東京カトリック神学院で開催されます。テーマ：「実に、キリストはわたしたちの平和です」。参加申し込みは終了しています。12月3日からザビエル祭の動画コンテンツが公開されます。
- 七五三のお祝いが、11月20日（日）11時からの「子どもと共に捧げるミサ」の中で行われます。希望される方は申し込み用紙にご記入の上、備え付けの水色のポストに入れてください。締め切りは11月6日（日）です。
- 11月26日（土）の待降節第一主日のミサから新しいミサ式次第の使用が始まります。その準備の為に、横浜教区典礼委員会が新しい式次第を使用した模擬ミサのDVDを作成しました。二俣川教会ではそのDVD(模擬ミサ版)を10/16、10/23、10/30の各日曜日11時ミサ後、聖堂にて上映しました（約30分）。映像には模擬ミサ版と解説版の2種類があり、横浜教区ホームページから自由に見ることができます。



新しいミサ式次第冊子  
(レターケースに1冊ずつ配布されていますが、必要数お配り出来ます。)



模擬ミサのDVD上映会の様子  
(レターケースに1冊ずつ配布されていますが、必要数お配り出来ます。)

## 一粒会大会が久しぶりに開催されました！

10月10日、スポーツの日（祝）に、『第54回横浜教区一粒会大会』が開催されました。テーマは「皆の兄弟姉妹として生きる」です。場所はカリタス女子中学高等学校で、最寄り駅であるJR南武線中野島駅から徒歩10分ほど。学校の入り口ではQRコードによる来場者のチェックが行われ、また同時に手指の消毒も係の方にしっかりといただきました。

会場は設備の整った学校の講堂で、1席ずつ開けての着席がわかりやすく表現されていて、コロナ下での開催がいかにか神経を使うものなのかと、迎えてくださる側の準備に心からの感謝の念を覚えました。

12時の開会挨拶の後、当日の講師である、名古屋教区の松浦悟郎司教様の講話が始まりました。コロナ感染防止の為に来場者を制限したことから、この日の講話とごミサはライブ配信されましたので、ご覧になられた方も多かったことでしょう。

松浦司教様はテーマに沿って話されながら、何度も、イエス様はかけつけてくださる方とおっしゃいました。単に来てくださるのではなく、急いでかけつけてくださることとの違いを私はとても嬉しい安心した気持ちで受け止めていました。神学生や司祭を育てることを目的とした一粒会の大会で、このような温かいメッセージをいただけて、改めて、神様と私たち信徒を繋いでくださる存在のありがたさに気づくことができ、大きなお恵みをいただきました。

30分の休憩をはさんでごミサが始まりました。以前のように壇上に参加された全部の神父様方が上がられてのごミサではありませんでしたが、特にご聖体拝領の時などは、密集をできるだけ避けるように配慮され、工夫されているなど感じることができました。

今回の一粒会大会には最初は17名の方が申し込まれていましたが、当日の参加者は13名でした。二俣川教会独自のアンケートを実施させていただいた結果を下記に掲載いたします。また、参加者のお一人から感想文をいただきました。心から感謝いたします。

広報委員会 F. N.

\*\*\*\*\*

### 第54回横浜教区一粒会大会参加アンケートの纏め

\*参加者：13名

\*アンケートを参加者全員に配布。10月18日現在、回収総数7名分。

- ① 参加できてよかったですか？（はい：7 / いいえ：無し）
- ② 大会の内容はどうでしたか？（満足できた：7 / 不満無し）
- ③ 不満だと思ったのはどのような点ですか？ → 記載無し
- ④ 来年も開催されると仮定して、どのようなことを望みますか？
  - 神父様のトークがあるとよかった。
  - 神父様方のお話を伺う機会（パネルディスカッション等）があればよいと思った。
  - 今回のように短時間のほうがよい。
  - 12時スタートでよいが、昼食を食べる場所を提供してもらいたい。
  - マスクなしで参加できる大会を望みます。
  - できれば事前に交通アクセスの情報を知らせてもらえると助かる。
- ⑤ 全体的な感想をお願いします。
  - スピーディーでよかった。
  - 皆様の大変な努力とご苦労の上に成立した大会だと感じて感謝。久しぶりの一粒会大会に参加できてとても嬉しい。
  - 開催していただいただけでも感謝している。
  - 「召命」「兄弟姉妹」について教区の皆様と考え祈るよい機会となった。

- 名古屋教区松浦悟郎司教の講話の内容にちむどんどんした。教会は信仰の目的ではなく道具です。
- コロナのせいなのかこじんまりした形だったが、席も1席ずつあいていてかえってゆったりとした気持ちで参加できてよかった。
- 松浦司教様のお話がよかった。全体にコンパクトにまとめられていて時間もちょうど良い長さだった。会場と案内等がすばらしかった。コロナ禍の中での開催で準備の方々も大変だったと思うが、QRコードなど万全の体制で感心した。会場の設備もすばらしくトイレの数も多くて助かった。全体的にすばらしい大会。ご尽力下さった皆様に心から感謝。  
(編集注：スペースの関係で文章を短くしたり、ですます調を変えたりしています。ご了承下さい。)

\*\*\*\*\*

## お恵みの一日 ～ 一粒会大会参加記 ～

この度、初めて一粒会大会に参加させて頂きました。「カトリック信者2歳」の私にとって、兄弟姉妹の皆様と朝、待ち合わせをしてから夕方、解散するまでを含め、一瞬一瞬が新鮮で大きなお恵みでした。皆様と分かち合いながら道中を共にしたこと。現地で「アルペなんみんセンター」の方とお話しできたこと。松浦司教様に「兄弟姉妹」の深く温かい意味を教えて頂いたこと・・・そして、梅村司教様のミサ司式と祖父江神父様のお説教では「コロナ禍にあっても愛・忍耐・謙虚を忘れないことの大事さ」「召命を支えるお祈りの大事さ」を教えて頂きました。

このような喜びとお恵みに満ちた一粒会大会に、私たちが与ることができるようにご尽力下さった姜神父様、Kさんをはじめたくさんの方々に感謝致します。

マグダラのマリア S.S.



# 『日本二十六聖人 を 知ろう!』

## ～ 学び、共に歩む ～

### Vol. 2 : 日本二十六聖人を守護聖人としている教会の紹介

☆横浜教区には、二俣川教会の他に、二宮教会（神奈川県中郡二宮町）と  
吉田巡回教会（静岡県榛原郡吉田町）があります。

☆東京大司教区： 本所教会（東京都墨田区）

☆さいたま教区： 佐野教会（栃木県佐野市）

鹿島教会（茨城県神栖市）

☆札幌教区： 円山教会（北海道札幌市中央区）

☆仙台教区： 大河原教会（宮城県柴田郡大河原町）

☆名古屋教区： 平針教会（愛知県日進市）

美濃加茂教会（岐阜県美濃加茂市）

太閤山巡回教会（富山県射水市）

☆京都教区： 宇治教会（京都府宇治市）

☆大阪大司教区： 関目教会（大阪府大阪市城東区）

高槻教会（大阪府高槻市）

☆広島教区： 萩教会（山口県萩市）

☆長崎大司教区： 島原教会（長崎県島原市）

時津教会（長崎県西彼杵郡）

田平教会（長崎県平戸市）

堂崎巡回教会天主堂（長崎県五島市）

☆大分教区： 日向教会（宮崎県日向市）

☆鹿児島教区： 指宿教会（鹿児島県指宿市）

出水教会（鹿児島県出水市）

手花部巡回教会（鹿児島県奄美市）

★新潟教区、高松教区、福岡教区、那覇教区にはありません。

◎大浦天主堂（長崎市南山手町）の正式名は日本二十六聖殉教者聖堂で、殉教の地、長崎市西坂町に向いて建てられています。長崎市西坂町には「日本二十六聖人記念館」があります。



(2014年 Fが訪問時に撮影)

(出典：カトリック教会情報ハンドブック)

## マリア会通信 No. 121



マリア会の各会の活動がスタートしました。2年以上の活動休止が続いたので、メンバーとの久しぶりの再会でした。実際には初日にどのくらいメンバーが集まるだろうかという不安がありました。というのは、この休止の間に亡くなったメンバー方もあり、加齢のため活動参加が難しいメンバーもいらしたからです。活動の始まったグループの活動の様子を紹介致します！

ステラマリス帽子を編む会は、コロナ禍にあってもメンバーが帽子1個を編むことができるセットを用意し続けました。マリア会通信で、メンバーではないけれども帽子を編んでみたいと思った方が、セットを自由に持ち帰り編んでいただくことを提案し、なんとスタートの時点で155枚の編み上げた帽子が届いていました。大感激でした。メンバーにとっては、セットを持ち帰り編むこともさる事ながら、以前のように和気あいあいのおしゃべりをしながら編みたいという欲求はマックスに達していました。活動初日は「元気だった？」と編む手よりも口の方が良く動いていたような。11月には毛糸の帽子に、タオル、歯ブラシ、石鹸、日本的な手のひらに乗る程度の大きさの物を添えてプレゼントします。(タオルでなくても日本手ぬぐいでも可。) 献品のご協力をお願いいたします。活動日は第3金曜日ミサ後、第4木曜日ミサ後から13時までです。

アンナ会は、第1回目から横浜療育センターへのクリスマスプレゼント作りでした。かつてしたことのある作業ですが、思うようにいかない！作業を思い出しながら、おしゃべりも止まらない！2回目でプレゼントを作り終わり、達成感を味わいました。3回目からはクリスマスオーナメントをパッチワークで作ります。活動日は第2、第4月曜日10時から12時です。

ボリビア支援グループは、予約販売が始まり順調に購入者を増やしています。基本のマーマレード、いちじく、プラス今は、紅玉ジャムの3種類を予約販売しています。対面販売が可能になりましたら、ジャムの種類も増やしていこうと思いますが、今は混乱を防ぐために3種類に留めます。予約の方法は、掲示板をご覧ください。

どの会もメンバーが増えるのは大歓迎です。活動日においでください。お待ちしております。

マリア会 K. M.

\*\*\*\*\*

### 【編集後記】

長崎で日本二十六聖人が殉教されたのが2月5日です。来年に向け、教会全体で「日本二十六聖人を知ろう」企画がスタートしました。この企画を機に、私たち共同体の信仰の先輩である日本二十六聖人のことを一緒に学び、共同体の歩みを成長させていきましょう。因んだ教会への来訪のお話などを、是非、広報に寄せてください。お願いいたします。(A. K. 記)